



町職員の人材確保を

安部 丘 議員

定員管理計画において職員数を90名としているが、令和元年以降一度も実現できていない。人材確保は組織力維持向上の基盤であり、最優先課題だ。採用活動と離職抑制の取組について問う。

住民サービス向上の観点では、職員の異動周期が一律的なことから「習熟した頃には異動する」「相談できる窓口が見えない」という話をよく耳にする。希望する職員は7年程度異動せず、業務を習得し、技術に磨きをかけ、より高いレベルの住民サービスを提供できるような道も選択肢として設けるべき。

特に建設、水道、農林振興、自治体DXやAI活用、そして採用などの分野においては効果が大きいがどう考えるか。

Q 職員体制と技能の向上にむけて

A 体制確保に務める

町長塚原隆昭

職員の確保は、重要かつ深刻な課題と認識。飯南高校ジョブフェアでは先輩職員が出向き説明することで採用が増えてきた。

離職抑制は働きやすい職場づくりから。今年度から新入職員には生活面全般をサポートする年齢の近い職員を配置し、きめ細かな相談、支援の体制を整備した。

限られた職員体制であり、専門的な職員を育てるより、幅広い役場業務を知り、問合せて柔軟に対応できる職員を育成する。

Q 国県補正予算の有効活用を

重点支援地方交付金に食料品の物価高騰に対する特別加算がある。本町はどのような形で支援する予定か。

小規模事業者の賃上げ環境整備には、国に先駆け県が、最低賃金や社会保険料の負担の増加を中小企業が乗り切るための支援として6億2900万円を計上し審議中だ。

強い経済を実現する根幹は、物価高騰に負けない賃金の上昇であり、本町の賃上げ実態を把握する計画はないか。

国の補正予算に、地域未来交付金1千億円があり、デジタル技術を活用した地域の取組、避難生活環境の抜本的改善などが示されている。

本町には全戸、全事業者を光ケーブルで結んだ無限の可能性を持つインフラが既に整備されている。活用に知恵を絞れ。

A い〜にゃんPAYで速やかに支援

町長塚原隆昭



い〜にゃんPAY

食料品の特別加算は、「い〜にゃんPAY」のポイント付与で支援する。未交付の住民にはプリペイドカードで支給する。賃上げ状況の把握は難しい。厚労省の毎月勤労統計調査を参考にしている。

県の支援策は省力化に資する設備更新も対象で使い勝手が良い補助金である。事業者に届くよう商工会とも連携して周知に努める。

地域未来交付金は、本町が整備した光ケーブルを含め活用を検討する。

一般 質問

令和7年 12月定例会

若者たちを元気に

岸 光研 議員



Q やりがいいいきが感じる職場環境を

少子高齢化、人口減少が進み、特に地方の経済等が衰退している。町民一人ひとりが自ら考え明るい未来に向かうよう、施策を講じていかなければならない。

行政の役割というものがより重要で、住みよいまちづくりに向け、企画立案等を実行しなければならぬ。本町にも優秀で元気のある若手職員が多くいる。若い人材のアイデアをもっと引き出して施策に生かしていくことが重要だ。

それには、職員一人ひとりが元気を出し、光り輝き、やりがい・生きがいのある職場となることを期待するが、町長の基本的な姿勢を問う。

A 仕組みづくり検討

町長塚原隆昭

ニーズも多様化し、社会情勢の変化の中で、職員は課題の解決に向けて頑張っている。



役場本庁舎内風景

人事交流や若手職員研修などを通して、職員のキャリアアップに努めていきたい。職員一人ひとりの能力向上を目指し、固定概念にとらわれず社会課題に粘り強く取り組む職員の育成を目指す。

職員一人ひとりの「できること」「やりたいこと」を業務の中で伸ばし、やりがいや成長を実感できる仕組みづくりも検討する。

Q 若者たちの居場所づくりを

少子化により、若年層も減っている。それでも地元に残り、家を守り、ふるさとのために頑張る若者もいる。またインターン者も増えている。

そういった若者たちは、小グループでの集まりやサークル活動のような集いはあると思うが、一同に会して組織する団体、以前の青年団のような活動が復活できないものかと考える。

このような活動を通して、この地域での人との関わり、果たすべき役割等も自然に学んでいったように思う。人材育成という観点からも若者が集える組織ができないか、教育長の考えを問う。

A 地域のつながりづくりを進めたい

教育長大谷哲也

今の時代、考え方やライフスタイルは多様化し、団体組織的な活動に魅力を感じない



い若者も多いと感じる。行政主導で若者が集うということとは難しい。地域で育む人づくり、公民館や地域が連携した社会教育の仕組みづくりが大切だ。学校運営協議会、ふるさと教育、生命地域学など、学校・家庭・地域が力を合わせ、ふるさとに貢献できる人材を育てたい。

考え方が多様化し、担い手不足など課題があっても、地域のつながりづくりを進めれば人々の絆が深まり、子供や若者たちが生き生きと活躍できるまちにつながると思う。